開発事業実施区域における工事段階のオオタカ対策

●オオタカの巣

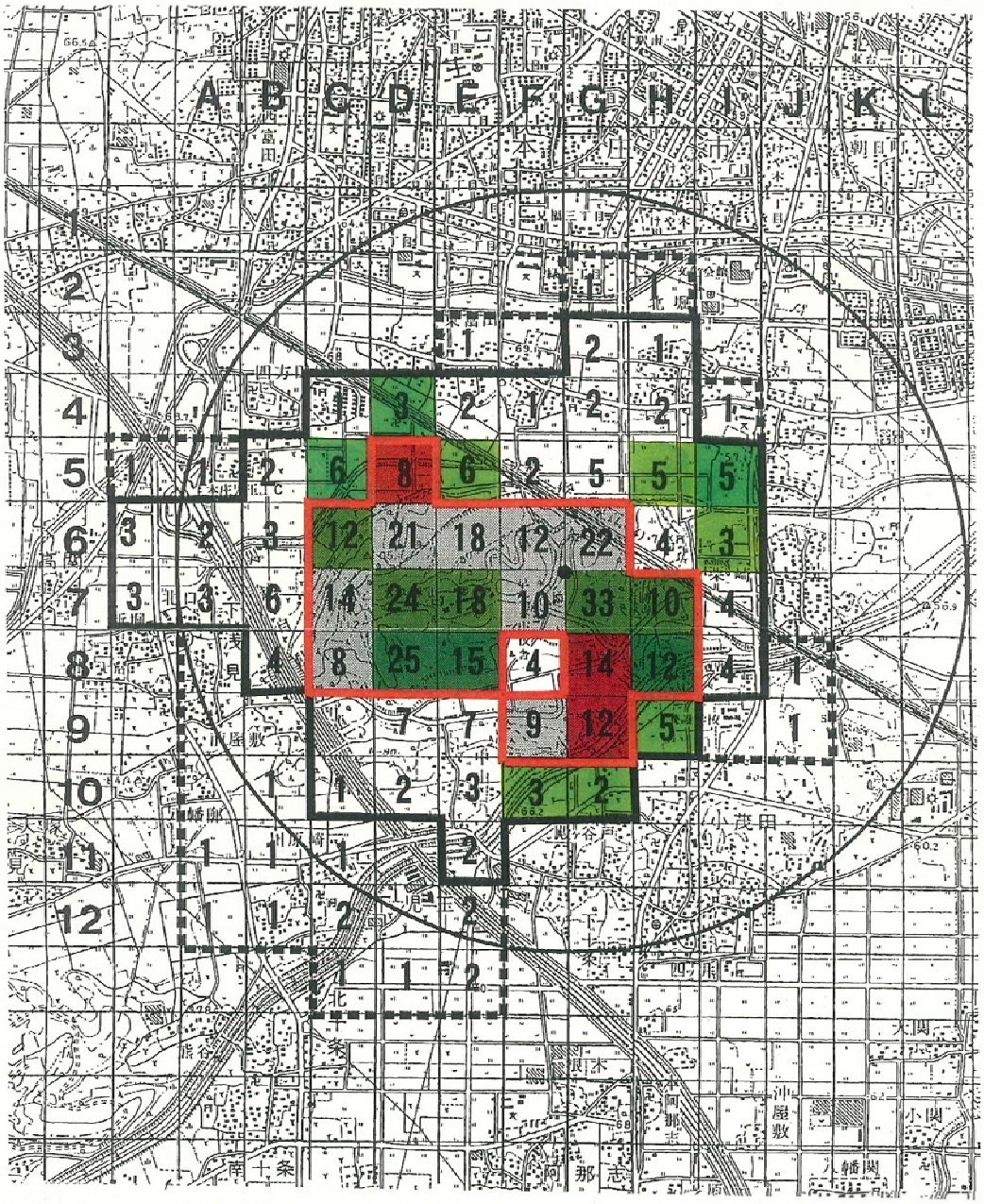
環境省や埼玉県のオオタカ保護指針では、オオタカの繁殖調査に基づき「営巣中心域」と「高利用域」を設定し、開発による環境改変に応じた対策を実施することが求められています。対策は、計画段階で検討する内容と工事段階で実施するものに区分されますが、工事施工時の対応としては、主に「工事監視モニタリング」が取組まれます。

このモニタリングは、オオタカ営巣地近隣と工事施工箇所に調査員を配置し、工事内容とオオタカの行動を同時に把握して、その影響レベルの判断に応じて、工事を一時的に休止したり続行したりすることによって、オオタカの繁殖を成功に至るまで観察する手法です。効果的な運用を図るために、実施箇所の選定や対応基準等の検討が行われました。オオタカの行動エリアと対策概要、モニタリング基準は、以下の通りです。

●リサーチパーク地区で繁殖するオオタカの成鳥

調査期間中に確認されたオオタカの採餌行動のメッシュ別確認件数

1998年1月～1999年8月



凡例

採餌行動確認件数

- 4回 2メッシュ
- 3回 1メッシュ
- 2回 6メッシュ
- 1回 11メッシュ

- 繁殖期最大行動圏
- 繁殖期95%行動圏
- 繁殖期高利用域

0 500 1000m

N

◆<u>早稲田リサーチパーク地区のオオタカ</u>

「早稲田リサーチパーク」の敷地内に位置する大久保山周辺は、1970 年代からオオタカの繁殖記録のある安定した生息地として知られています。

開発計画に伴う実態調査は、1998 年より開始され以降毎年の繁殖状況等についての調査が永年継続されており、各種対策に反映されています。

これまでに、1～2 ペアの繁殖数の変動があり、また近年はノスリの繁殖も認められ、猛禽類の他種や天敵であるカラスとの関係が、毎年の繁殖成否に影響します。

●オオタカ成鳥（雌）の飛翔

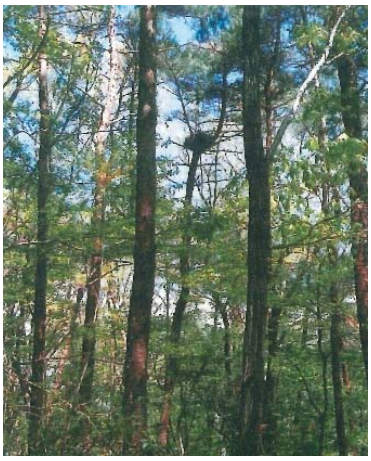
●オオタカ成鳥の飛翔

●オオタカ亜成鳥の飛翔

●ノスリ成鳥の飛翔

●オオタカ成鳥（雄）のとまり

●オオタカ成鳥（雌）のとまり



●アカマツ林内の巣①

●アカマツ林内の巣②

●全身が茶褐色のオオタカ
巣立ち直後の幼鳥

オオタカは、繁殖が成功すると同じ巣を使用し、失敗すると巣を移動する傾向が見られます。

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業　工事施工段階におけるオオタカ保護対策

●推定営巣中心域　□最新営巣地から半径400m

期間		内容	オオタカの繁殖ステージ	埼玉県オオタカ保護指針上の敏感度	対策項目：長尺クレーンの使用自粛	対策項目：工事監視モニタリング※	対策項目：工事全体の休止	対策項目：通常モニタリング	対策項目：低騒音・低振動重機の使用	備考
繁殖期	1月	A. 工事監視前期	求愛・造巣期	中	● □	●		□	● □	
	2月	B. [営巣中心域] 工事休止 ※雛の巣立ち後1週間程度まで		大						
	3月									
	4月		産卵	極大			● □	□		
	5月		抱卵期							
	6月		巣内育雛期	大						※1
	7月	C. 工事監視後期	巣外育雛期	中	● □	●		□	● □	※2
	8月									
非繁殖期	9月	D. 通常工事期	分散	小						
	10月							● □	● □	
	11月									
	12月									

※工事監視モニタリング・・・
工事の実施に際して、工事区域周辺に調査員を配置し、目視観察やTVモニター等によるオオタカの生息状況や行動の即時継続観察に基づき、別途定める基準を用いて工事による影響が生じたと判断されたときには、工事を休止する対応を行う。

※1.　7月期の工事再開は、巣立ち後1週間程度を目途

※2.　8月期の通常工事再開は、分散後1週間程度を目途

「工事監視モニタリング」におけるオオタカ繁殖期（1 月～8 月）の工事影響レベルと対応基準

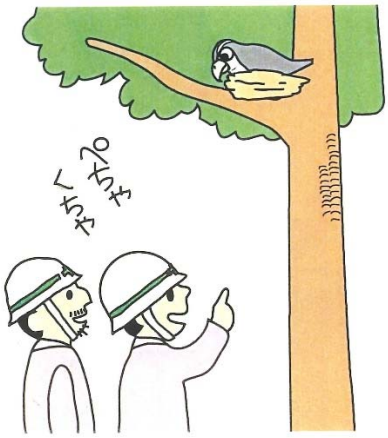
	影響度	1 月～3 月 A. 工事監視前期 求愛・造巣期	4 月～6 月 B. 工事監視中期 造巣・抱卵・巣内育雛期 ※雛の巣立ち後一週間程まで	7 月～8 月 C. 工事監視後期 巣外育雛期 ※幼鳥の移動・分散まで	調査員から工事現場への連絡の有無 （工事の継続～休止の判断）
レベル1	通常	【成鳥の出現頻度】 ・1 日 1 回以上の出現が認められる。 【成鳥の繁殖関連行動】 ・「誇示」「防衛」の両方あるいはいずれか一方の行動が確認されている。	【成鳥】 ・巣及び周辺で自然な行動が見られる。 【雛】 ・巣内で自然な行動が見られる。	【成鳥】 ・巣及び周辺で自然な行動が見られる。 【巣立ち幼鳥】 ・巣及び周辺で自然な行動が見られる。	・調査員から工事現場責任者へ連絡する必要はない。 ・実施中の工事を、継続して問題はない。
レベル2	小↑異常↓大	【成鳥の出現頻度】 ・1 日 1 回の出現も認められなかった。 【成鳥の繁殖関連行動】 ・「誇示」「防衛」のどちらか一方の行動も、3 日連続して確認されていない。	【成鳥】 ・工事の内容に応じて、巣内へ入るのをためらう行動が見られる。または、巣内で工事方面を気にする行動をする。 【雛】 ・工事の内容に応じて、巣内で工事方面を気にする行動が見られる。	【成鳥】 ・工事の内容に応じて、巣の周辺で工事方面を気にする行動が見られる。 【巣立ち幼鳥】 ・工事の内容に応じて、巣及び周辺で工事方面を気にする行動が見られる。	・調査員は工事現場責任者へ連絡し、レベル 2 であることを告げる。 ・現場責任者は、警戒領域に入ったことを認識し、次の連絡を待つ。
レベル3		【成鳥の出現頻度】 ・2 日連続して 1 回の出現も認められなかった。 【成鳥の繁殖関連行動】 ・「誇示」「防衛」のどちらか一方の行動も、5 日連続して確認されていない。	【成鳥】 ・工事の内容に反応して、巣から飛び立ったり、巣の周辺での警戒行動（姿・声）が見られる。 【雛】 ・工事の内容に反応して、巣内で伏せる警戒姿勢をとる。	【成鳥】 ・工事の内容に反応して、巣の周辺で警戒行動（姿・声）が見られる。 【巣立ち幼鳥】 ・工事の内容に反応して、巣及び周辺で警戒行動（姿・声）が見られる。	・調査員は工事現場責任者へ連絡し、レベル 3 であることを告げる。 ・現場責任者は、各持場へ連絡し、すぐに工事の休止が可能となるように手配を促す。
レベル4		【成鳥の出現頻度】 ・3 日連続して 1 回の出現も認められなかった。 【成鳥の繁殖関連行動】 ・「誇示」「防衛」のどちらか一方の行動も、7 日連続して確認されていない。	【成鳥】 ・工事の内容に反応して、10 分以上警戒行動（姿・声）が続き、巣に近づかない。 【雛】 ・工事の内容に反応して、30 分以上巣内で伏せた警戒姿勢をとり続けている。	【成鳥】 ・工事の内容に反応して、巣の周辺で 10 分以上警戒行動（姿・声）が続く。 【巣立ち幼鳥】 ・工事の内容に反応して、巣の周辺で 10 分以上警戒行動（姿・声）が続く。	・工事監視前期では 3 日又は 7 日、工事監視中・後期では 10 分（成鳥・幼鳥）又は 30 分（雛）の異常が明らかとなった経過時点で、調査員から現場責任者へレベル 4 になったことを連絡し、工事の休止を要請する。 ・悪影響が生じていると判断されたため、工事監視前期では 1 日、工事監視中後期では 2 時間工事を休止し、成鳥の再出現や「誇示」「防衛」のいずれか一方の行動を確認するか、警戒行動が未確認となった段階で工事を再開する。異常が続いている場合は、正常となるまで工事の休止を続ける。

出典：「本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業　第 2 回環境対策調整会議」資料

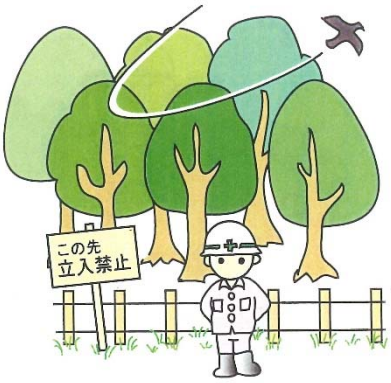
●営巣地周辺の林内は立入禁止

●野生生物保護への対応

◆工事現場作業員への留意事項



■動物を脅かさないように。
巣が近くにあるかもしれないので静かに。



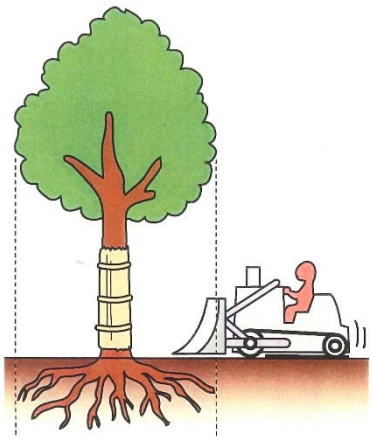
■工事区域はロープなどで囲み、
区域外の森へ入らないように。

■森の中には拡声器を設置しないように。
ラジオのつけっぱなしはやめましょう。

■動物に餌を与えてはいけません。
残飯はきちんと持ち帰りましょう。

■不必要な夜間照明はやめましょう。
必要な場合は、動物が反応しにくい
赤色系の光にしましょう。
森にライトを向けるのはやめましょう。

■むやみに草花を採取してはいけません。



■根の範囲は重機や資材で固めてはいけません。

■ゴミはきちんと分別し、くずかごに。

オオタカの営巣地周辺や野生の生きものが豊かな場所での工事では、現場での工事作業員が悪影響を及ぼさないための対応が重要となります。

早稲田リサーチパーク地区の工事では、作業員にイラストでわかり易く記したマニュアルを配布し、自然や生きものにやさしい工事の実施を徹底しています！